



ふうの木のある学校から

高鍋町立高鍋西小学校 学校だより 12月号② 文責 校長

お礼

先日、小丸出口公民館様から、空缶・空瓶等回収益金の一部として、本校へ図書券を寄贈していただきました。

今後、本校図書室の蔵書充実に努めるとともに、子どもたちの読書活動の充実のために活用してまいります。

本紙に紹介のうえ、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

新年を迎える準備

- ① 竹は、切った面が笑顔に見えるように切る。
- ② 縄は「七・五・三」に分けてしばる。
- ③ 松や梅の木、南天などを植え込むのにも作法がある。

さて、何のことでしょうか？
答えは「門松（かどまつ）」です。

12月18日（水）に、黒木清作さんや福島政信さん、本校の宮崎さんが、職員玄関前に大きな門松を設置してくださいました。

寒さが増しつつある中の、屋外での作業でしたが、立派な門松を午前中のうちに制作していただき、ありがとうございました。

1・2年生は、制作現場を実際に見て、門松の作り方や意味について話を聞くことができ、大変意義ある機会となりました。

門松は、年神様が家を訪ね入るにあたっての目印だとされています。本校にもちゃんと訪ねて来られることを祈りましょう。

読書 百遍 意 自ずから通ず

「どくしょ ひゃっぺん
い おのずからつうず」

「難しい書物であっても、何度も繰り返して読めば、その意味は自然にわかってくるものである。だから、わからないと思ってすぐにあきらめるのではなく、何度も読むべきである」という意味です。

同じ書物を100回も読むことは難しいことかもしれませんが、100冊以上の本を読むことは可能ではないでしょうか？

実際、西小の子ども達の中には、100冊以上の図書を借りている子が35名います。

ちなみに、その35名の中には、200冊以上を借りている子が3名います。

11月7日現在の数字なので、これらの数字はまだ伸びているものと思っています。

読むことで語彙力を高めることができること、様々な人物の感情や多様な分野・価値観に触れることで、観察力・思考力・想像力を培うことができることなど、その効果は言うまでもないことです。

目で文字を追うことと同時に、紙の本のページをめくったり、前にもどったりする行為が、脳の前頭前野により影響を与えているという説もあります。

今のところ、教科書や資料集・ドリル関係は、紙媒体ですが、10年後はデジタル化が進んでいるかもしれません。

紙媒体とデジタルの本、子ども達にはどちらのよさも理解して、共存できる道を探してほしいと思っています。

キッズ「健幸」アンバサダー（４年生）

１２月３日（火）、高鍋西小学校にオリンピック陸上競技銀メダリストの朝原さん、パラリンピック車いすラグビーに３年連続出場した三阪さんが、来られました。

４年生が健康の大切さや運動の楽しさを知り、家庭や地域に、健康や運動の輪を広げる役割（アンバサダー）を担う事業の一環です。

世界で活躍する「本物」「一流」の人物と出会うことによって、子どもたちに「夢」や「憧れ」を抱かせることができるのではないかと常々考えていました。

アドバイザーとして、的場さんという方が子どもたちの準備運動を仕切ってくださいましたが、この方も女子やり投げで日本歴代６位の記録をもってらっしゃる方でした。

リズム感を大切にしたい楽しい準備運動にいつの間にか子どもたちも引き込まれて行く様子が見られ、ぜひ普段の体育の授業にも活用してほしいなあ、と感じた次第です。

この事業は、昨年度に続き２回目。

昨年度の取組で、家庭や地域の皆さんへの健康・運動への関心が高まっていったという実績が認められ、今回も実施されました。

これから４年生の子どもたちがアンバサダーとなり、様々な啓発活動をしていきますので、私たち大人も、友達、隣近所に健康の大切さ・運動の楽しさを広げていきましょう。

そして、来年度も高鍋に「本物」「一流」の方々が来訪される後押しをお願いします。

もちつき（５年生）

もち米を「より分け」、「水につけ」、水を切ったら「蒸し器にかける」。ほどよく蒸しあがったら、臼（うす）へ移し、杵（きね）でつく。

お正月が近づくと、隣近所のあちこちで、蒸し器をかける火の煙や、できあがったばかりの餅の香りが漂ってきて、季節の風物詩となっていたような気がします。

１２月１０日（火）。

その「もちつき」に５年生が挑戦しました。

石臼に移されたもち米を木製の杵でつく作業。臼のへりでもミスヒットするものなら体全体に振動が伝わります。

初めて経験する子どもたちがほとんどだったかと思います。

苗を植え、病気や害虫の心配をしたり、時には草取り・時には薬をまいたりして稲を育て、田んぼの水量も細かく調整するなどの作業によって収穫につなげる。

稲刈り・乾燥・脱穀・もみすり・精米といった段階を経て、やっと人の口に入るようになる。

以前までは、米不足も心配される報道がされていましたが、最近は大いぶ落ち着いたようですね。

今回経験したことから、農業への理解や他の生産物に関わっている方々の苦労等を学んでいてもらえればありがたいと考えています。

サポートいただいた、JA 青年部や保護者の皆さんに感謝申し上げます。

良い年をお迎えください

令和６年は、どんな年でしたか？ 子ども達が大きな事故や事件に巻き込まれることなく、新しい年を迎えることができることが、何よりの幸せと思っています。

安心安全はもとより本校の教育活動を支えてくださったすべての皆様に感謝いたします。

私自身は、整形外科系の手術で１ヶ月入院するという年でした。その後定期検査の結果は良好であり、コルセットを外しての運動の許可をいただきました。

来る令和７年が、皆様にとって穏やかな中にも輝かしい年となりますことをお祈り申し上げ、今年の学校だよりの結びといたします。